

隣保館だより

編集 下樓隣保館 〒689-4526 日野町下樓157番地1

電話：72-1191 (FAX兼)

E-mail: rinpokan@town.hino.tottori.jp



保育所・黒坂小学校が展示を見学

12月7日、ひのつこ保育所と黒坂小学校の子どもたちが、解放文化祭の展示作品を見学の下樓隣保館・集会所を訪れました。

保育所の子どもたちは、展示作品を見学したあと、隣保館長から「友達を大切にしよう」などの人権についての話を聞いたあと、ビデオを鑑賞



館長の話を聞きました



身近な人権について学習

しました。また、午後からは、黒坂小学校の6年生も来館、展示作品を隣保館長の説明を受けながら見学しました。例年は根雨小学校の6年生と交流会をしていましたが、今年はインフルエンザの影響で延期となりました。

アニメで拉致被害を学習

12月の樓の美学習会、小学生の人権学習では、アニメ映画「めぐみ」のビデオを観賞しました。

「めぐみ」は、拉致被害者の横田めぐみさんの生い立ちや、拉致されたときから現在に至るまでの家族などの様

子を描いた作品です。子どもたちは、拉致について知らない人がほとんどでしたが、中学生は同じ年代の人が拉致されたことにショックを受け、強い関心を持ったようでした。

樓の美学習会 小学生・中学生交流会

12月26日、下樓集会所で、樓の美学習会の小学生と中学生の交流会が行われました。

今回は、3グループに分かれて、それぞれがカレーライスやお好み焼きを作りました。小学1年生から中学3年生までの幅広い年齢の中、上級生が下級生に教え、各グループは、和気あいあ



みんなで協力し合って

いと取り組みました。

隣保館講座で正月花を生ける

隣保館学習講座の生け花教室では、12月27日に枝松や千両などを使って、新年を迎える正月の花を生けました。

受講生は、大人の中に唯一、去年から参加して、花が大好きな小学6年生の女の子がいます。この日は、初めて大物に挑戦しました。

はじめは、枝若松など枝物の扱いに戸惑っていたが、先生の丁寧な指導で、立派に生けることができました。

今は家の玄関などに飾られて、新年に彩りを添えていることでしょう。

2月の学習講座予定

■生け花(草月流) 12月16日(火) 午後7時30分
会場 下樓集会所 (講師：生田清子さん) ※花代が必要です。

▼日程など変更になることがあります。詳しくは下樓隣保館へ

▼講座は2時間の予定です。町民どなたでも参加できますので、お気軽に参加ください

人権のまち ひの

話し合いつないで 小地域座談会を

■人権・同和教育研究会シンポジウム

10月27日に町文化センターで開かれた、
第34回人権・同和教育研究会

シンポジウムの主な内容をお知らせします。

差別事象に学ぶ

このシンポジウムは、「6
月に町内で発生した差別落書
き事象（7月号で紹介）を見
過ごしてはいけない」との実
行委員全員の思いから開かれ
たもの。今回は、コーディネ
ーターに山下弘彦さん（日
野ボランティアネットワーク）
（同和問題）、吉野立さん（高
齢者の人権）、生田安子さん
（女性の人権）を迎え、それ
ぞれの体験や実態に基づいて

問題点や課題を探りました。

差別事件を

二度と繰り返さない社会へ
中原さんは、6月の差別落
書き（同和死、同和バカ）に
対し、「みんなで人権尊重の
まちづくりを進めている中、
部落差別に苦しむ人々の悲し
みや怒りを全く理解しようと
しない卑劣な行為に激しい憤
りを覚える。このような偏見
と差別感情はどこで、誰から
どのようにして育てられたの
か、なぜいまだに繰り返され



左から、山下さん、中原さん、吉野さん、生田さん

るのかを一緒に考えていた
きたい。一方、それを放置し
てきた私たちの社会にも責任
の一端がないのかも考えてほ
しい」と訴えました。また、
「今回の差別事象に苦しむ私
たちに対し、誰からも温かな
励ましの一言も聞こえてこな
かったことにむなしさと寂し
さを感じる」と話しました。

高齢化を支える仕組みを

認知症の人と家族の会鳥取
県支部の吉野さん（米子市）
は、認知症の女性の長男から
近所から「火事が心配だ。徘徊
するので迷惑。入所させ
ろ」などの苦情や、アルツハ
イマー症の男性の娘からは、
「毎日、市場に車で出かけ仕
事をしようとする。車を取り
上げると自転車で出かけるよ

うになり危険」など、吉野さ
んがかかわってきた認知症の
人を取り巻く地域社会の実態
を報告。高齢化社会での家族
や地域の仕組みづくりはど
うあるべきかを問いかけました。

男女が共働する地域社会へ
生田さんは、「女の来る場
所ではない」と言われた神社
の役目での体験や、DV（ド
メスティック・バイオレンス、
家庭内暴力、身近な間柄の暴
力）被害に耐えかね、妻が夫
を殺してしまった事件などの
事例を報告し、男性優位の社
会について疑問を投げかけ、
「家庭や地域社会のさまざま
な場面に男女間の不平等、不

合理があり地域の大きな損失
につながっている。男女が共
働する社会の仕組みが必要」
と訴えました。

福祉と人権の地域づくり
を小地域座談会で話して
最後に山下さんが、「まず
は知らなければ声に出してく
い、行動に移していく。お互
いに関心・共感・想像力を持っ
て相手の立場や気持ちを理解
することが第一。地域をどの
ように守っていくのか、どの
ような地域にしたらよいのか
を小地域座談会で話し合うこ
とが大切ではないでしょうか」
とあいさつして閉会しま
した。

参加者、報告者からの主な意見

- ・同和教育が人権教育の原点だということを、ほかの人権課題にもつないでいきたい
- ・「差別を許さない、繰り返さない」という住民の強い意志と行動が必要
- ・認知症を正しく知り、支え合う仕組みが地域に必要
- ・男女の区別意識をなくし、共働して地域を支えていく仕組みや、自治会役員などへの女性の参画が必要
- ・超高齢化の社会では、地域の存在価値が問われている。社会や福祉のあり方を考え行動することが大切
- ・同和問題も高齢者・女性の人権もすべて人権尊重社会づくりへ向けた地域課題として深く結びついている
- ・今回の研究会テーマ『人権尊重のまちづくりをしよう』を、ぜひ小地域座談会につないで話し合いたい